

第16回政策推進会議報告

日時 11月20日 9時33分～11時10分
場所 4-1会議室
出席者 19人

1 次期尼崎市議会定例会市長提出予定案件について

企画財政局長から資料に基づき説明。(以下、質疑等)

- ・公民館分館のうち、3館は地元の受け入れがなされないが、どうなるのか。
基本的に条例では全公民館分館を廃止する。地元で受け入れられる分館はそのまま無償で利用されるが、受け入れ先のないところは使用しないこととなる。
- (市長) 現在、調理員が置かれている保育所については、平成30年3月31日までの間、栄養士又は調理師配置の義務付けの規定は適用しないという経過措置であるが、該当するような保育所があるのか。
現在のところ調理師等を配置していない保育所はないが、退職したときに備えたものである。
- (市長) 全ての保育所に配置できているのに、経過措置を定める必要があるのか。
この条例の施行日が25年4月1日であり、その時点で調理師等がいらない保育所に適用される。
- (市長) 医務室についてはどうか。
現時点では該当する保育所はない。
- ・市営住宅の設置及び管理に関する条例において、暴力団員が入居できないことを規定しているとのことだが、条文ではどこに規定しているのか。
第6条第5項で規定している。
- (市長) 現在、全体を規制する暴力団排除条例は策定作業中であるが、市営住宅に関する条例における規制については別物であることを明確にするべきである。

2 平成25年度主要取組項目(素案)等について

企画財政局長から資料に基づき説明。(以下、質疑等)

- ・次期行財政改革計画という名称は、いつまで使うのか。
次期行財政改革計画の名称は、あまがさき「未来へつなく」プロジェクトとする予定であるが、明日の総合計画等特別委員会で説明すれば、以後、使用しようと考えている。
- ・新規・拡充事業の調整結果がA・B・調整中と表記されているだけで説明がないが、市民から尋ねられれば説明するのか。
そのとおりである。
- (市長) 事業内容の説明は詳細に行っているが、どういう理由でA・Bとなったのか分かりやすくすることが肝心であるがどうか。
他都市の状況も調査したが、不採択となったものは表記されていない。評価の説明を記載すればかなりのボリュームになるので、説明を求められれば対応したいと考えている。

(市長) ホームページ上で、評価をクリックすれば理由欄が出てくるようにできないか検討してもらいたい。

・要求段階で約 12 億円だったものが、現段階で約 2 億円となっているので、その説明も必要ではないか。

ハード事業については調整中であり、この金額で決定したわけではない。

(市長) 施策の優先順位もあるし、もう少し協議してから決定する事業もあり、説明方法に余地がある。各局とは政策査定結果とその理由を共有するべきと思うがどうか。

既に配布した資料に記載している。

3 あまがさき「未来へつなぐ」プロジェクトについて

企画財政局長から資料に基づき説明。(以下、質疑等)

(市長) 市民意見聴取の基本情報において、「高齢化の進行に伴い、後期高齢者医療療養費給付費や介護保険給付費などが年々増加し、税負担の増につながっている」とあるが、税のみで負担しているわけではないので、財政負担の増と表現を変えてはどうか。

そのとおり表現を変更する。

・例えば、保育所の民間移管については、これまでにパブリックコメントを実施しているが、この計画に記載されていると、二重に意見聴取することにならないか。

市立幼稚園の見直しと同様、効果額が計上されるので掲載したものであるが、市として決定していることを改めて市民に意見を聞くのはおかしいので、表現は配慮する。

(市長) 来年度から実施する総合計画と行財政改革計画の項目の柱ごとの取組がどうなっているのか、先ほどの主要取組項目とともに市民向けに公表するものである。ただ、今年度実施した事業たな卸しにおける市民の視点や意見を、我々が十分咀嚼できていないように感じた。先日、新しいメンバーとなった事務事業点検委員会が開催されたが、委員には市の財政状況など多くの時間を割いて理解してもらう必要がある。無報酬で参加して意見を頂戴しているのだから、その意見を我々は真摯に受け止め、学び、身に着けなければ市民に説明できない。事業たな卸しの 1 年目の反省とともに、全局が関心を持って一緒に取り組んでももらいたい。

4 その他

・企画財政局長から、公明党から平成 25 年度予算に対する申入書を配布。

・総務局長から、平成 24 年度「1・17 は忘れない」地域防災訓練の概要について報告。(以下、質疑等)

(市長) 急にメールが入ることになると思うので、市民が混乱しないように、特に福祉関係や産業関係には十分周知してもらいたい。職員においては、市役所職員としての災害対応と、子どもの迎えなど自身の家庭と合わせて対応できるか、二重の意味で訓練に参加してもらいたい。

・経済環境局長から、今冬の電力需給見通しについて報告。(以下、質疑等)

(市長) 関西広域連合からの要請はないか。

現在のところ要請はない。

- ・電力だけに限らないが、同じ風呂を沸かすので、夏場は水温が20度くらいからのものが、冬場は10度から沸かすことになり、余計にエネルギーが使われることになる。本市も尼崎市地球温暖化対策地域推進計画を策定し、温室効果ガスの削減に取り組んでいる。関西電力から電力使用の要請がないからといって、取り組まなくてもいい訳ではないので、ライフスタイルの変化に合わせてエネルギーの使用を抑制してもらうよう市報に掲載し、市民に呼びかける。
- (市長) 夏場のピークカットほどではないと思うが、総量抑制については考えなければならない。今の電力供給は火力が中心であり、電力使用量が増えるとCO₂排出量が多くなる。省エネルギーに取り組まないと地球温暖化に影響するという共通認識を持つべきである。なぜ冬場は数値目標を掲げなくても良いのか、夏場と冬場の違いを示し、分かりやすく情報発信してもらいたい。
- ・節電が定着しているとして既に電力使用量の減少が見込まれているが、市役所において夏場を過ぎても取り組んでいるようなことはあるか。
例えば工場の土曜操業や定期点検を夏場に変更するといったものではなく、昼休みの消灯のように行動が習慣化したものを言っている。
- ・実は尼崎市環境率先実行計画における電力使用量では、芳しくない数値となっている。夏場の節電で取り組んだことは定着しているはずなので、冬場も延長して実施してもらいたい。
冬場に室温を1度上げるためにどれだけのエネルギーが使われるかといったことを周知し、できる限り同じ部屋で過ごすなど、生活スタイルを工夫してもらいたい。
- ・市長から、国に申請している環境モデル都市の審査状況について報告。(以下、質疑等)
(市長) 国の環境モデル都市に立候補しているが、書類審査を通過し、明後日に東京でプレゼンテーションを行う予定である。現在、当落線上にあるとのことで、商工会議所とともに、チーム力を示せるようにがんばってくる。
現在のところ18都市中8位で、神戸市の評価が一番高い。本市はその特徴である産業都市であることや、過去の公害を市民と協働で克服したことが一定評価され、書類審査は通過したものと思われる。尼崎版グリーンニューディールが緒に着いたばかりで厳しい質疑が予想されるが、しっかりプレゼンテーションを行ってくる。
- ・都市整備局長から、気仙沼市における「花のまちあまがさきチューリップ運動」の取り組みに関して報告。(以下質疑等)
 - ・11月11日に気仙沼市において2万球のチューリップの贈呈式を行い、地元の新聞に掲載された。当日は午前7時から贈呈式を行い、約70人も参加していただき、1万球を国道45号沿線に植え、残りは仮設住宅で育てる予定である。募金については、11月末まで受け付けているが、現在約100万円集まっており、来年度以降も継続するつもりである。

以上